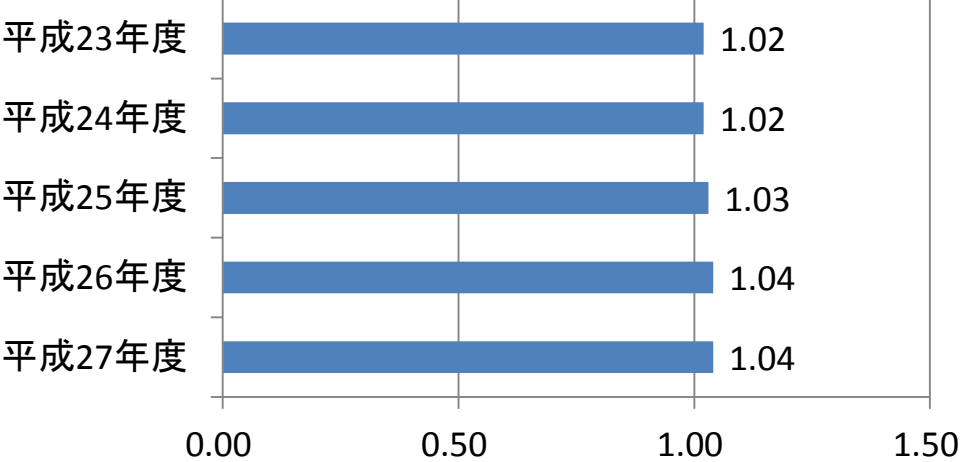


5 在院日数の指標

解説	<p>DPC ごとの在院日数を視点とし、病院全体として効率よく診療（診断群分類点数表の入院期間Ⅱより短い）していることを評価します。いわば、「効率性の指標」ということができます。</p> <p>そもそも平均在院日数は、患者の構成により数値が異なるために、患者構成を加味しない単なる平均在院日数は意味がありませんでした。DPCにより、最も医療資源を投入した傷病名と、行った治療行為に患者分類が行われ、それぞれのDPC ごとの全国平均の在院日数も公表されました。このデータと、自院のDPC ごとの在院日数により、同じDPC でも在院日数が全国よりも長いのか短いのか判断できます。</p> <p>この指標は加重平均として自院の全体像を示すものですが、数値は1.0が全国平均の在院日数(12.67日)であり、大きい方が全体として在院日数は短く、効率よく診療していることを示します。</p>												
実績	 <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>指標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成23年度</td><td>1.02</td></tr><tr><td>平成24年度</td><td>1.02</td></tr><tr><td>平成25年度</td><td>1.03</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>1.04</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>1.04</td></tr></tbody></table>	年度	指標値	平成23年度	1.02	平成24年度	1.02	平成25年度	1.03	平成26年度	1.04	平成27年度	1.04
年度	指標値												
平成23年度	1.02												
平成24年度	1.02												
平成25年度	1.03												
平成26年度	1.04												
平成27年度	1.04												
定義	厚生労働省のDPC 評価分科会の公開データです。												